

1 金魚の水を用意しましょう。

金魚の飼育に適した水、それはズバリ「水道水」です。全国どこでも蛇口をひねるだけで、金魚の好きな「中性」の水が得られます。ただし、消毒用として塩素(カルキ)が含まれています。この塩素は金魚にとっては有毒、そのままでは使用できません。まずは有害な塩素を抜くことから。

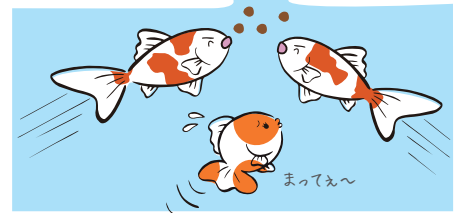


2 どんな金魚を飼おうかな？

フナのようにスマートな体形ですいすい泳ぐ金魚から、泳ぎがゆっくりで、比較的丸っこい形をした金魚、目が飛び出したり、目の下に風船のような袋のある個性派金魚まで実にさまざまです。また、鉢に入れて上から眺めてみたい金魚、ガラス水槽に入れて横から、前から眺めてみたい金魚、どれもこれも魅力的な姿を楽しむことができます。

さまざまなタイプの金魚をいっしょに飼う(混泳)には注意が必要です。

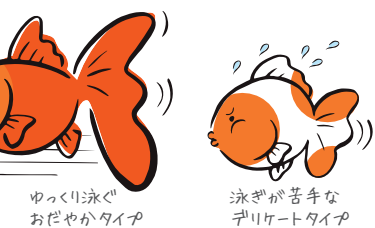
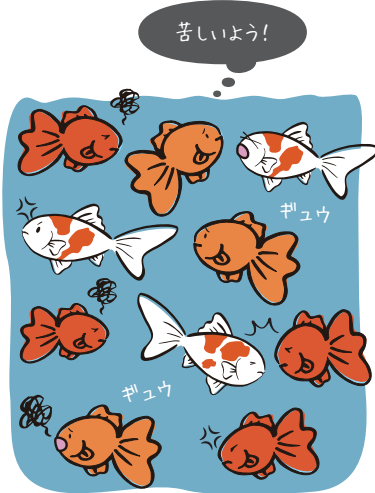
エサが食べられなかったり、いじめられたり……



「金魚の大きさ」と「飼育する数」について。
いっぱい飼いたい気持ちはわかるけど……飼育する数は、容器の大きさ(水量)や金魚の大きさによって異なります。“金魚の小鉢”のような6ℓ程度の容器なら、体長3～4cmほどの小さな金魚を1～2匹、これが限度です。またスポンジフィルターなどろ過器のある60cm水槽(57ℓ)なら10匹～15匹の飼育も可能ですが、金魚の数が多いと水の汚れも早くなり、水換えの必要回数も多くなります。

「体形」や「泳ぎ方」それぞれ品種の性質を知った上で。

いっしょに飼う場合は、性質や体格がよく似た金魚どうしを選んでください。



3 どこで飼えばいいの？

1日中、お日さまの当たる場所は避けてください。日々のエサやりや水換えなどが支障なく行える静かな場所が理想なのですが……それにもう一つ、万が一、地震などが発生しても影響の少ない安全な場所を選んでください。

▲屋外飼育の注意事項

夏の高水温と冬の低水温、そして雨対策が必要になります。高水温は葦簀(よしず)や遮光ネットなどである程度防ぐことができます。

雨の日に

飼育鉢の縁に掛けるだけで設定水位を超えた雨水を排水。水位の見張り番
●小 ●大

飼育容器の置き場所

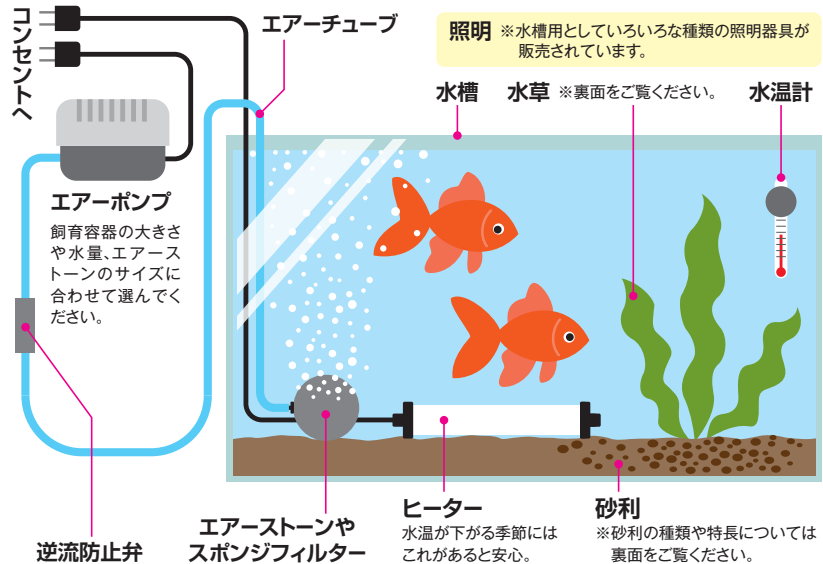
静かで温度変化の少ない場所がいいな……

30℃以上の水温が続くとダメ～!!



4 あると便利なあれこれ。

バケツ、お椀や小さなボウルにサイフォンポンプ。汲み置き水を入れておいたり、金魚をすくったり、水換えやそうじの時にしばらく金魚を入れておいたり……また飼育水のくみ出しに便利なサイフォンポンプも、ぜひそろえておきたいものです。



エアーポンプとエアーストーンとエアーチューブ。

飼育水にたっぷり酸素を供給したり、ゆるやかな水流をつくりたい。水をろ過するにはスポンジフィルターを取り付けてください。(左のイラストをご覧ください)

棒形に球形、円ばん形もオススメ! バブルメイト



毎日の水温管理に、水換え時に。

水温を知ること、管理すること、それは金魚飼育の基本中の基本。ゆるやかな温度変化であれば、適応範囲も広い金魚も、急激な温度変化はキケンです。体調をくずしてしまう場合もあります。



ガラス水槽に、コンパクトで見やすい水温計。スリム水温計
●mini 55 ●S ●L
●測定範囲 0℃～40℃(mini55) 0℃～50℃(S, L)

コレもオススメ。

フンやゴミを吸い出したり、アカムシやブラインシュリンプなどのエサやりにもどうぞ。

ピペット

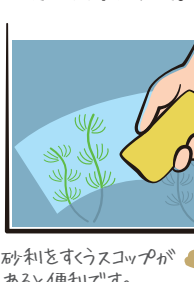
5 水換えとおそうじ。

フンやエサの食べ残しが少しずつたまり、飼育水は汚れてきます。また見た目には透明な水でも、水質が悪化(酸性化が進むなど)していることがあります。毎日の水換えは必要ありませんが、定期的な水換えやおそうじをしましょう。

① 金魚をすくって別の容器に移します。フィッシュネットではなく、ボウルなどに追い込んで移しましょう!



② 鉢やジャリを洗います。砂利は飼育容器から取り出して、鉢や水槽のガラス面についた「ヌメリ」は柔らかいスポンジで。



③ 汲み置き水やカルキを抜いた水道水を飼育容器に入れて、中に金魚を移せば完了です。ただし、今まで泳いでいた飼育水と同じ水温にしておいてください。

